

技術資料

農林水産省登録
第22791号

芝生用除草剤



シバッチ® 乳剤

®はシンジェンタ社の登録商標です。

芝生用除草剤



シバッチ® 乳剤

(S-メトクロール乳剤)

農林水産省登録第22791号

成分：S-メトクロール 83.7% 普通物
包装：1ℓ×6
有効年限：3年
危険物：第4類第3石油類

- 使用前にはラベルをよく読んでください。
- ラベルの記載以外には使用しないでください。
- 本剤は小児の手の届く所には置かないでください。
- 使用後の空き袋は圃場などに放置せず適切に処理してください。

予算内での
雑草管理対策に貢献できます！



ダラダラ発生傾向の雑草への
対応が期待できます！

- ヒメクグに適用拡大！
- 非スルホニルウレア系の成分がヒメクグを防除！
- 発生前から発生初期の処理でヒメクグに卓効！



syngenta®

シンジェンタ ジャパン株式会社

ローン アンド ガーデン事業本部

〒104-6021 東京都中央区晴海1-8-10 オフィスタワー X21階

TEL:03-6221-3802 FAX:03-6221-3899 www.syngenta.co.jp

この印刷物の記載内容は2013年2月現在のものです。13年2月作成 (ADV6K-13)

TM

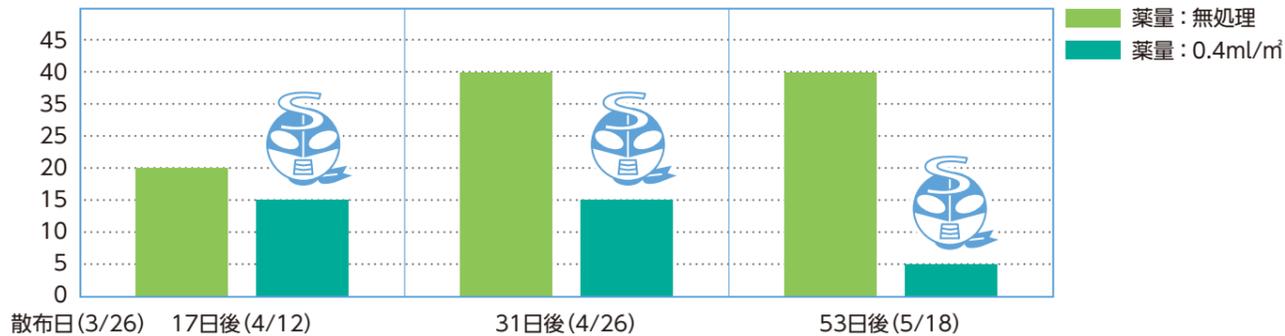
NEW ヒメクグに対する優れた効果



シバッチはヒメクグに対して高い発生抑制効果と生育抑制効果を示します。

試験場所：西日本グリーン研究所 試験圃場(福岡県) 調査撮影日：2010年5月10日(処理45日後)
 芝種：コウライシバ 薬量：シバッチ0.4ml/m²
 薬剤処理日：2010年3月26日(ヒメクグ発生前) 散布水量：200ml/m²

■ ヒメクグ発生被度の推移(%被度)

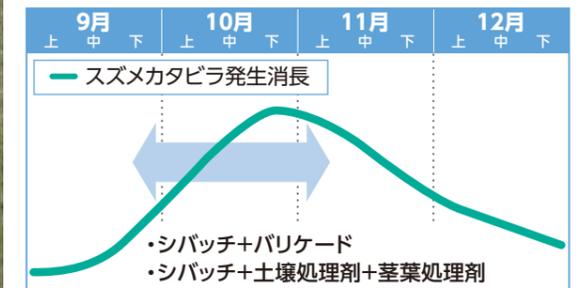


スズメノカタビラに対する優れた効果



試験場所：茨城県ゴルフ場
 芝種：コウライシバ
 薬剤処理日：2009年10月9日
 (スズメノカタビラ発生前～発生始期)
 調査撮影日：2010年3月23日
 薬量：シバッチ 0.4ml/m²
 発生前土壌処理剤 0.16ml/m²
 散布水量：200ml/m²
 (社内試験)

■ 使用タイミングと組み合わせ例



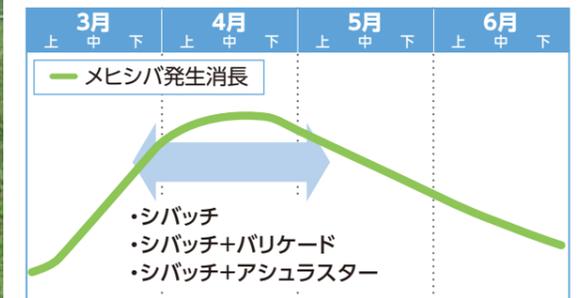
※地域や気象条件などによって発生消長のイメージは異なります。

メヒシバに対する優れた効果



試験場所：大阪府ゴルフ場
 芝種：ノシバ
 薬剤処理日：2010年4月13日(メヒシバ発生前)
 調査撮影日：2010年7月7日(処理85日後)
 薬量：シバッチ0.3ml/m²
 散布水量：200ml/m²
 (社内試験)

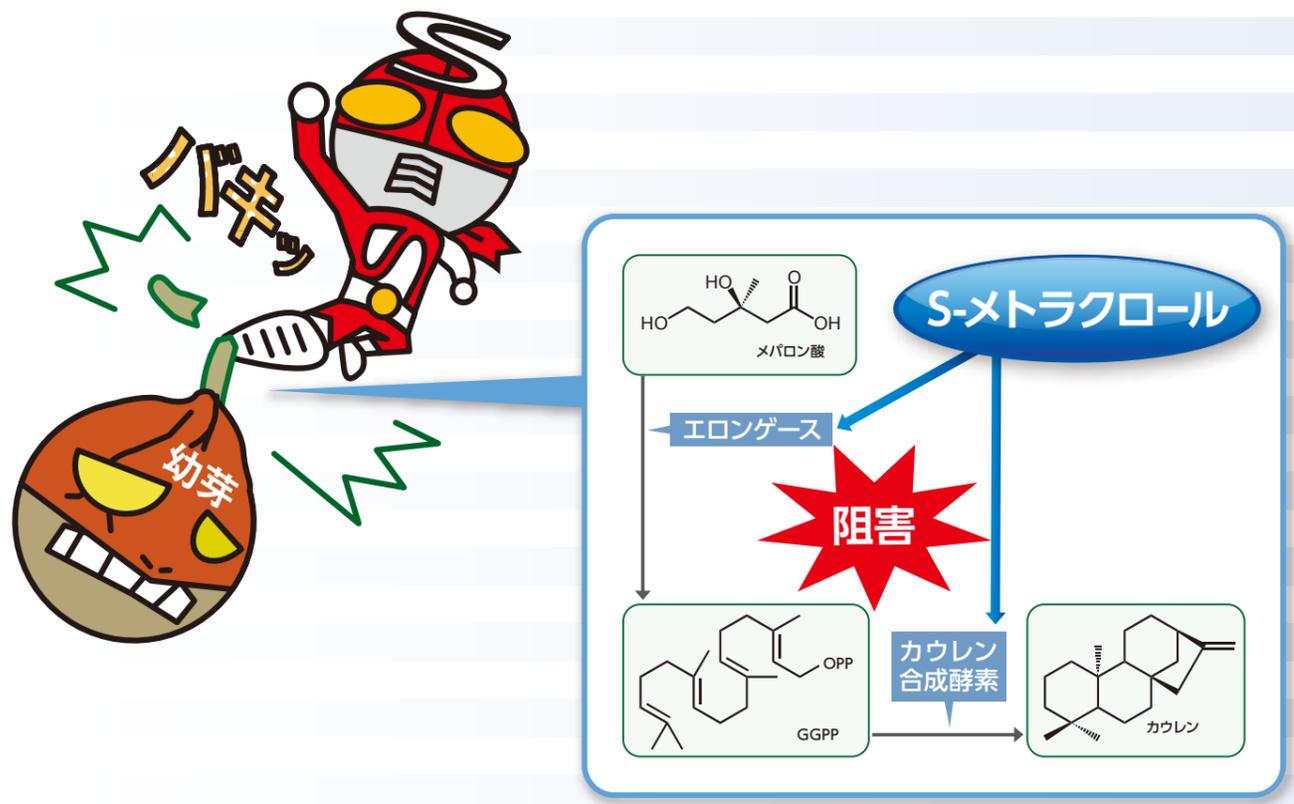
■ 使用タイミングと組み合わせ例



※地域や気象条件などによって発生消長のイメージは異なります。

作用機構

シバッチ乳剤の有効成分であるS-メトラクロールは、非ホルモン、吸収移行型で、主として**雑草の幼芽部より吸収され**、幼芽部の伸長抑制、根の発生および伸長を抑制し、植物を枯殺します。



植物に対する安全性及び薬害

その①

ノシバ・コウライシバなど日本芝に安全にご使用いただけます。過度にストレスがかかる場所、張り芝への使用は避けてください。

その②

寒地型西洋芝やバミューダグラスには薬害を生じる恐れがあるので、付近にある場合にはかからないように注意してください。

その③

周辺樹木、花には直接薬液がかからないように注意してください(フジの新芽に対する処理で枯れ現象が確認されています)。

人と環境に配慮した優しい薬剤です。

薬剤の性状

◇ 人畜に対する安全性(普通物)

急性毒性(製剤)

ラット経口LD₅₀: 5,000mg / kg(♂)

2,515mg / kg(♀)

ウサギ経皮LD₅₀: >2,000mg / kg(♂, ♀)

◇ 環境に対する安全性

水産動物に対する影響(製剤)

コイLC₅₀: 9.3mg / L(96時間)

ミジンコEC₅₀: 9.3mg / L(48時間)

殺草スペクトラム

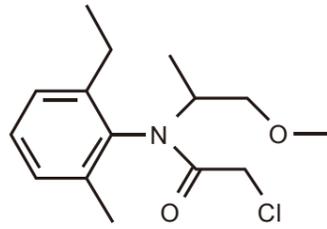
雑草名		発生前散布		
		0.25ml/m ²	0.3ml/m ²	0.4ml/m ²
イネ科	メヒシバ	●	●	●
	アキメヒシバ	●	●	●
	スズメノカタビラ	●	●	●
	エノコログサ	○	○	○
	スズメノヒエ(実生)	●	●	●
キク科	ウラジロチチコグサ(実生)	○	○	●
	オオアレチノギク	●	●	●
	セイヨウタンポポ(実生)	○	●	●
	トキンソウ	○	◎	◎
	ハキダメギク	◎	◎	●
	ハハコグサ	◎	◎	●
	ヒメムカシヨモギ	◎	●	●
	マメカミツレ	○	◎	◎
アブラナ科	タネツケバナ	◎	◎	●
	ナズナ	◎	◎	●
カタバミ科	カタバミ	○	○	○
ゴマノハグサ科	オオイヌノフグリ	◎	●	●
	タチイヌノフグリ	◎	●	●
シソ科	ホトケノザ	●	●	●
トウダイグサ科	コニシキソウ	×	△	△
ナデシコ科	オランダミミナグサ	◎	◎	◎
	ツメクサ	●	●	●
	ハコベ	●	●	●
マメ科	カラスノエンドウ	○	○	◎
	ヤハズソウ	×	×	△
NEW カヤツリグサ科	ヒメクグ	●	●	●

●:完全枯殺 ◎:ほぼ枯殺 ○:効果あり △:やや不十分 ×:効果なし

成分および性状

一般名：S-メトラクロール 83.7%
 剤型：乳剤
 試験名：SYJ-111EC
 化学名：(S)-2-クロロ-2'-エチル-N-(2-メトキシ-1-メチルエチル)-6'-メチルアセトアニリド及び(R)-2-クロロ-2'-エチル-N-(2-メトキシ-1-メチルエチル)-6'-メチルアセトアニリド

構造式：

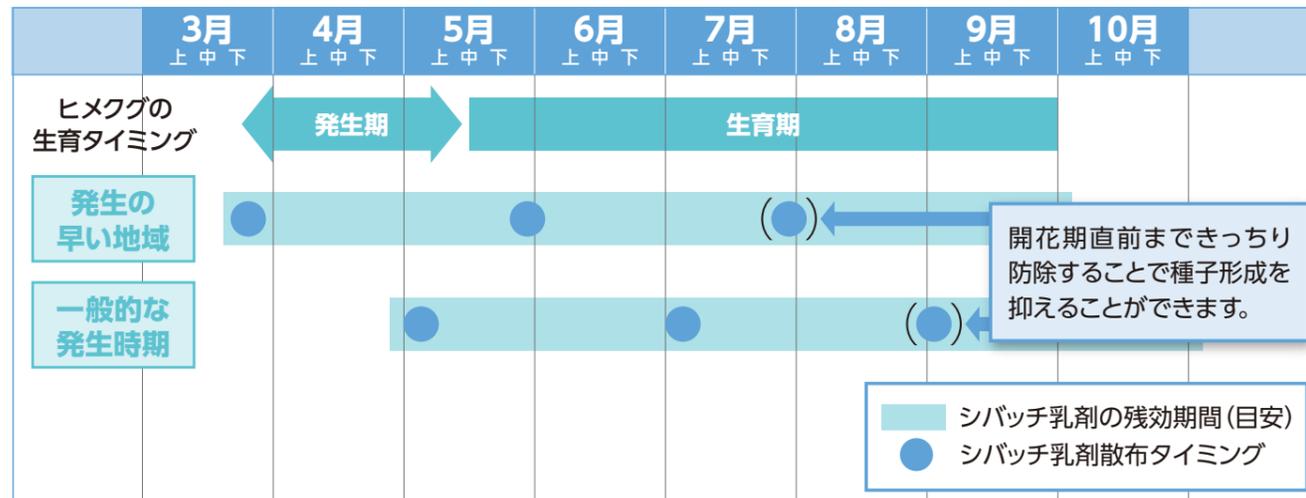


外観：黄赤色可乳化油状液体

適用表および使用方法

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	メトラクロール及びS-メトラクロールを含む農薬の総使用回数
			薬量	希釈水量			
日本芝	一年生雑草	春夏期雑草発生前 (芝生育期)	0.2～0.4 mL/m ²	200～300 mL/m ²	3回以内	全面 土壌散布	3回以内
		秋冬期雑草発生前 (芝生育期)	0.25～0.4 mL/m ²				
日本芝 (こうらいしば)	NEW ヒメクグ	ヒメクグ 発生前～発生初期 (芝生育期)					

シバッチ乳剤散布プログラムのご提案(ヒメクグ)



- ヒメクグの発生タイミングに合わせて、発生直前に1回目の散布を実施します。
- 生育盛期や開花期は効果が劣るため、なるべく発生前または発生始期での散布を実施します。
- 発生の多い箇所では登録範囲内で高めの薬量を設定します。
- 約2ヶ月毎を目安に複数回の散布を行ってシーズンを通してヒメクグの発生を抑えることが重要です(散布回数は発生量や効果を見ながら選択してください)。
- 高温期には晴天時や炎天下での散布を避けます。

※ ヒメクグの発生タイミング：通常は5月上旬～ですが、近年、一部の地域で3月中旬頃からの発生が確認されています。

注意事項

効果・薬害などの注意

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) 発芽後の雑草に対しては、効果が劣るので必ず雑草発生前に時期を失ないように散布すること。
- (3) ヒメクグに使用する場合は、1回目処理はヒメクグ発生前に、2回目処理はヒメクグ発生前から発生初期に散布すること。
- (4) 有機物の多い土壌や粘土質の土壌では所定範囲内で多めの薬量を散布すること。
- (5) 寒地型西洋芝やバーミューダグラスには薬害を生じる恐れがあるので、付近にある場合にはかからないように注意すること。
- (6) 本剤の使用に当たっては、その日の天候に留意し、降雨が予想される時には使用を避けること。
- (7) 散布液の飛散や流出によって、周辺の有用作物に影響を及ぼすことのないよう十分に注意して散布すること。
- (8) 使用後の容器は圃場などに放置せず、環境に影響のないように適切に処理すること。
- (9) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けること。

安全使用上の注意

- (1) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- (2) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換してください。
- (3) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
- (4) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- (5) 公園等で使用する場合は、散布中及び散布後(少なくとも散布当日)に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください。

水産動植物に関する注意：使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使い切ってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないように適切に処理してください。